

第70回

トラック運送業界の景況感（速報）

平成22年4月～6月期

平成22年4～6月期の国内景気をみると、政策効果等により個人消費は底堅く推移しているが、景気の牽引役である輸出は減速傾向にあり、円高、株安などもあいまって景気回復に一服感がでてきている。

トラック運送業界では、一般貨物では急回復を示した前回の水準をほぼ維持したが、宅配貨物、宅配以外の特積み貨物では指標の悪化がみられた。最近の原油高により燃料コストが上昇してきており、営業利益の悪化が目立つ。業界の景況感の判断指標は▲50で、前回（▲46）から小幅悪化、4四半期連続の改善はストップした。

平成22年7～9月期の見通しについても、判断指標は▲54と4ポイントの悪化が見込まれており、先行き不安は拭かれていない。

平成22年7月30日

社団法人 全日本トラック協会

1. 今回（平成22年4月～6月期）の状況

(1) 概況

平成22年4～6月期におけるトラック運送業界の景況感は、「悪化」とした事業者は50%（前回49%）、「好転」とした事業者は11%（前回13%）で、判断指標は▲50となり、前回から4ポイント悪化した（前回▲46）。指標の悪化は小幅だが、4四半期続いた顕著な改善傾向はストップした。

貨物別では、宅配貨物、宅配以外の特積み貨物で指標の悪化が目立つ。

(2) 特別積合せ貨物

宅配貨物では、輸送数量は「減少」とする事業者が47%、「増加」とする事業者が23%で、判断指標は▲38となり、前回（▲31）から7ポイント悪化した。営業収入は「減少」とする事業者が49%、「増加」とする事業者が20%で、判断指標は▲44となり、前回（▲30）から14ポイント悪化した。営業利益は「減少」とする事業者が49%、「増加」とする事業者が15%で、判断指標は▲48となり、前回（▲36）から12ポイント悪化した。

宅配以外の特積み貨物では、輸送数量は「減少」とする事業者が38%、「増加」とする事業者が23%で、判断指標は▲23となり、前回（▲13）から10ポイント悪化した。営業収入は「減少」とする事業者が39%、「増加」とする事業者が21%で、判断指標は▲25となり、前回（▲20）から5ポイント悪化した。営業利益は「減少」とする事業者が46%、「増加」とする事業者が13%で、判断指標は▲42となり、前回（▲22）から20ポイント悪化した。

(3) 一般貨物

一般貨物では、輸送数量は「減少」とする事業者が39%、「増加」とする事業者が22%で、判断指標は▲22となり、前回（▲23）とほぼ同水準であった。営業収入は「減少」とする事業者が45%、「増加」とする事業者が22%で、判断指標は▲31となり、前回（▲29）から2ポイント悪化した。営業利益は「減少」とする事業者が47%、「増加」とする事業者が15%で、判断指標は▲41となり、前回（▲34）から7ポイント悪化した。

(4) 運賃水準

運賃水準は弱含んでいる。宅配貨物は▲32（前回▲27）、宅配以外の特積み貨物は▲36（前回▲16）、一般貨物は▲28（前回▲25）となり、再び下落傾向が窺える。

(5) 実働率等

実働率は▲23（前回▲16）、実車率は▲23（前回▲14）で、ともにやや水準を下げている。

雇用状況は▲13（前回▲11）で、ほぼ人手の過不足はない状況となっている。採用状況は▲18（前回▲18）でほぼ前年並み、所定外労働時間は▲23（前回▲15）でやや減少傾向にある。

保有車両台数は▲23（前回▲24）、貨物の再委託（下請運送会社への委託割合）は▲2

9（前回▲30）で前回と同様にやや減少であった。

(6) 地域別および取扱い品目別

業界の景況感を地域別にみると、九州は前回より大きく水準を下げて、地域別で最も厳しい。中部は水準を上げ、地域別で最も良い。

事業者の規模別では、小規模事業者は前回から水準を下げ、悪化となっている。大規模事業者は前回の水準をほぼ維持しており、相対的に景況感は良い。

主な取扱い品目別では、建設関連貨物の水準が低い。機械関連貨物は相対的に良い。

2. 今後（平成22年7月～9月期）の見通し

(1) 概況

平成22年7～9月期の見通しは、業界の景況感の判断指標は▲54で、今回よりもさらに4ポイント悪化する見込み。

(2) 特別積合せ貨物

宅配貨物は、輸送数量、営業収入は持ち直す見込み。

宅配以外の特積貨物は、輸送数量、営業収入ともやや水準を下げる見込み。

(3) 一般貨物

一般貨物は、輸送数量、営業収入、営業利益ともやや水準を下げる見込み。

(4) 運賃水準

宅配貨物、宅配以外の特積み貨物、一般貨物とも大きな変化はなく、引き続きやや下落の見込み。

(5) 実働率等

実働率、実車率とも、引き続きやや低下の見込み。

雇用状況は、人手の過不足はない見込み。採用状況は僅かに低下、所定外労働時間は引き続きやや減少の見込み。

保有車両台数は横ばい、貨物の再委託（下請運送会社への委託割合）は引き続きやや減少の見込み。

(6) 地域別および取扱い品目別

業界の景況感を地域別にみると、引き続き九州は最も厳しい見込み。中国も悪化となる見込み。

事業者の規模別では、引き続き小規模事業者は悪化の見込み。

主な取扱い品目別では、引き続き建設関連貨物が厳しく、機械関連貨物は水準を下げる見込み。

3. 特積貨物の概況

項 目		概 況	
宅	輸送数量	前回 1 (-31) 今回 2 (-38) 見通 0 (-25)	<ul style="list-style-type: none"> ・前回よりやや悪化した。地域別では、東北は大幅減少、九州は減少となっている。北陸信越、近畿は前回から改善がみられる。 ・今後は今回より改善するものの、水準としてはやや減少が続く見込み。
	営業収入 (売上高)	前回 1 (-30) 今回 1 (-44) 見通 0 (-33)	<ul style="list-style-type: none"> ・前回より悪化した。地域別では、東北は大幅減少、九州は減少となっている。北陸信越は横ばいを維持している。 ・今後は今回より改善するものの、水準としてはやや減少が続く見込み。
	営業利益	前回 2 (-36) 今回 0 (-48) 見通 0 (-47)	<ul style="list-style-type: none"> ・前回より悪化した。地域別では、東北、九州は減少となっている。近畿は、やや減少ながらも相対的には水準がよい。 ・今後は今回とほぼ同様で、水準としてはやや減少が続く見込み。
物	運賃・料金の水準	前回 1 (-27) 今回 0 (-32) 見通 0 (-31)	<ul style="list-style-type: none"> ・前回よりやや下落した。地域別では、東北は前回から大きく悪化し下落となっている。四国、北海道は横ばいとなっている。 ・今後は今回とほぼ同様で、水準としてはやや下落が続く見込み。

【調査の概要】

- ◆平成5年3月より開始、以降3カ月ごとに実施。
今回は平成22年6月25日に配布。
平成22年7月23日到着分までを集計。
- ◆回収率：70.4%

	特 積	一 般	合 計
調査対象	2 5 6	6 4 4	9 0 0
回収数	1 2 6	5 0 8	6 3 4

項 目		概 況	
宅 配	輸送数量	<p>前回 2 (30, 27, 37, 5) (-13) 今回 2 (21, 40, 29, 9) (-23) 見通 0 (15, 44, 36, 4) (-30)</p>	<p>・前回より水準を下げ、やや減少となった。地域別では、九州は大幅減少。中国、関東、中部、北陸信越では減少に歯止めがかかっている。 ・今後は、やや悪化するものの、水準としてはやや減少が続く見込み。</p>
	以外	営業収入 (売上高)	<p>前回 2 (27, 28, 37, 7) (-20) 今回 2 (19, 41, 30, 9) (-25) 見通 0 (14, 43, 37, 5) (-33)</p>
特 積	営業利益	<p>前回 1 (24, 35, 32, 8) (-22) 今回 1 (12, 41, 36, 10) (-42) 見通 0 (9, 45, 40, 7) (-45)</p>	<p>・前回より悪化した。地域別では、九州は大幅減少。中部では減少に歯止めがかかっている。 ・今後は今回とほぼ同様に、水準としてはやや減少の見込み。</p>
	貨 物	運賃・料金の水準	<p>前回 2 (6, 70, 20, 2) (-16) 今回 0 (65, 29, 4) (-36) 見通 0 (64, 31, 4) (-37)</p>

凡例

	大幅に 増加・上昇・好転・人手不足	+2点
	やや 増加・上昇・好転・人手不足	+1点
	横ばい	0点
	やや 減少・低下・悪化・人手過剰	-1点
	大幅に 減少・低下・悪化・人手過	-2点

(注1) 各グラフの上段は前回の状況、中段は今回の状況、下段は今後の見通しを示す。

(注2) 各グラフの構成比は四捨五入のため、合計が100にならない場合がある。

(注3) グラフ右のカッコ内は業況判断指標。指標は、各設問の回答に対し、増加・好転+1~+2、横ばい0、減少・悪化-1~-2の点数を与え、1事業者当たりの平均を100倍することにより算出している。

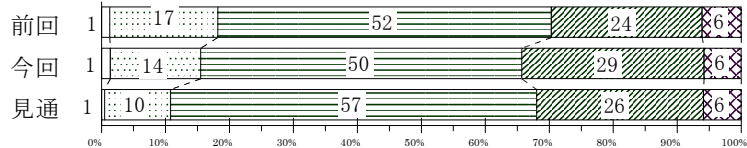
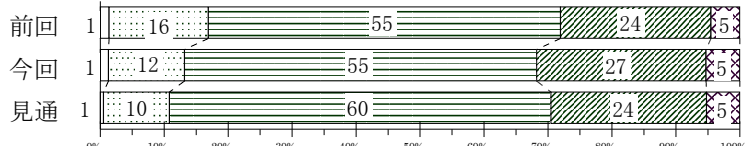
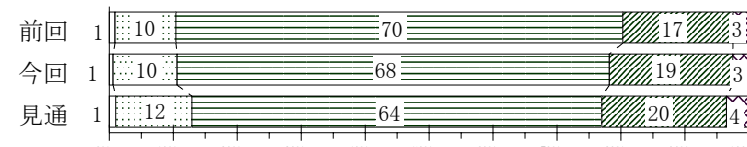
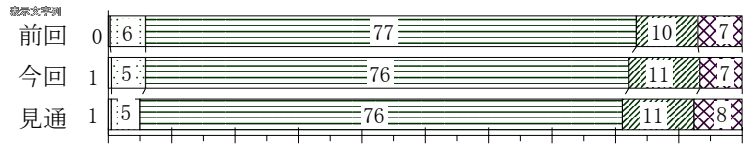
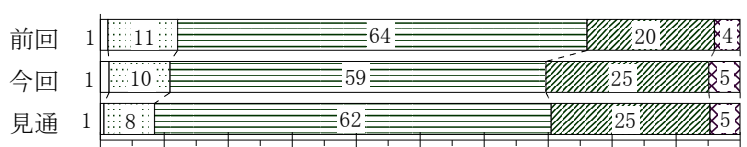
A (設問Aの回答者数) = a₁+a₂+a₃+a₄+a₅ (設問Aの選択肢1~5の回答数の和)

指標 = { (+2×a₁) + (+1×a₂) + (0×a₃) + (-1×a₄) + (-2×a₅) } ÷ A × 100

4. 一般貨物の概況

項目	概況
<p>輸送数量 (全体)</p>	<p>・前回と同様にやや減少であった。地域別では、東北、中部、四国、北陸信越は減少を免れた。九州は相対的に厳しい。規模別では、規模が小さくなるほど水準が低い。品目別では、機械関連貨物、その他貨物は相対的に良く、建設関連貨物は悪い。 ・今後は今回よりやや水準を下げ、やや減少が続く見込み。</p>
<p>営業収入 (売上高)</p>	<p>・前回と同様にやや減少であった。地域別では、九州は減少、北陸信越は減少を免れた。規模別では、規模が小さくなるほど水準が低い。品目別では、機械関連貨物、その他貨物は相対的に良く、建設関連貨物は悪い。 ・今後は今回よりやや水準を下げ、やや減少が続く見込み。</p>
<p>営業利益</p>	<p>・前回よりやや悪化した。地域別では、九州は減少となっている。規模別では、中・小規模事業者の水準が低い。品目別では、機械関連貨物は相対的によいが消費関連貨物の水準は低い。 ・今後は今回よりやや水準を下げ、やや減少が続く見込み。</p>
<p>運賃・料金の水準</p>	<p>・前回と同様にやや下落であった。地域別では四国、北海道は横ばいであった。規模別、品目別の差は小さく、総じてやや下落となっている。 ・今後も今回とほぼ同様に、やや下落の見込み。</p>

5. 共通の概況

項 目	概 況
<p>実働率</p>	 <p>・前回よりやや水準を下げ、やや低下となった。地域別では九州、品目別では建設関連貨物の水準が相対的に低い。 ・今後もやや低下の見込み。</p>
<p>実車率</p>	 <p>・前回よりやや水準を下げ、やや低下となった。地域別では九州、品目別では建設関連貨物の水準が相対的に低い。 ・今後もやや低下の見込み。</p>
<p>雇用状況 (人手の過不足)</p>	 <p>・人手の過不足感はない。地域別では中部、九州、東北、品目別では建設関連貨物でやや過剰感がある。 ・今後も人手の過不足はない見込み。</p>
<p>採用状況</p>	 <p>・前回と同様に横ばいとなっている。地域別では九州、中国、近畿、東北、中国、規模別では小規模事業者、品目別では建設関連貨物、その他貨物ではやや減少となっている。 ・今後は僅かに水準を下げる見込み。</p>
<p>所定外労働時間</p>	 <p>・前回よりやや水準を下げ、やや減少となった。地域別では中部、北海道、北陸信越、規模別では大規模事業者、品目別では機械関連貨物、消費関連貨物は減少を免れている。 ・今後もやや減少の見込み。</p>

項 目	
保有車両台数	<p>前回 0 5 70 22 4 (-24) 今回 0 4 71 23 2 (-23) 見通 0 4 74 20 2 (-20)</p>
<p>・前回と同様にやや減少であった。地域別では四国、北海道、関東、規模別では小規模事業者では減少を免れた。 ・今後も今回とほぼ同様の水準が続く見込み。</p>	
貨物の再委託 (下請運送会社への委託割合)	<p>前回 1 10 57 23 9 (-30) 今回 1 12 55 23 9 (-29) 見通 1 10 56 24 8 (-29)</p>
<p>・前回と同様にやや減少であった。地域別では中部、規模別では大規模事業者で減少を免れた。 ・今後も今回とほぼ同様に、やや減少の見込み。</p>	
経常損益	<p>前回 2 19 40 30 9 (-26) 今回 1 15 42 33 9 (-34) 見通 1 9 47 35 9 (-43)</p>
<p>・前回よりやや悪化した。地域別では東北、九州は相対的に厳しく、中部は相対的によい。規模別では小・中規模事業者、品目別では建設関連貨物、消費関連貨物が相対的に厳しい。 ・今後も今回よりやや水準を下げ、やや悪化が続く見込み。</p>	
業界の景況感	<p>前回 1 12 39 38 11 (-46) 今回 1 10 40 38 12 (-50) 見通 0 8 40 40 12 (-54)</p>
<p>・前回より4ポイント水準を下げ、やや悪化となっている。地域別では九州、規模別では小規模事業者、品目別では建設関連貨物は悪化であった。 ・今後もわずかに水準を下げ、やや悪化が続く見込み。</p>	

6. 事業者特性別の特徴

事業者特性	特 徴																																																																		
<p>① 地域（注4）</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・北海道は、全国順位 6 位から 7 位に下がり、景況感は悪化。 ・東北は、全国順位 9 位から 6 位に上がり、景況感は改善。 ・北陸信越は、全国順位 4 位から 2 位に上がったが、景況感は足踏み。 ・関東は、全国順位 7 位から 3 位に上がったが、景況感は足踏み。 ・中部は、全国順位 3 位から 1 位に上がり、景況感は改善。 ・近畿は、全国順位 5 位のままだが、景況感はやや悪化。 ・中国は、全国順位 2 位から 8 位に下がり、景況感は悪化。 ・四国は、全国順位 1 位から 3 位に下がり、景況感は悪化。 ・九州は、全国順位 8 位から 9 位に下がり、景況感は大幅悪化。 <hr/> <p>◆「業界の景況感」の業況判断指標の地方ブロック別順位◆</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th colspan="2" style="text-align: center;">H 2 2 年</th> <th colspan="2" style="text-align: center;">H 2 2 年</th> <th colspan="2" style="text-align: center;">H 2 2 年</th> </tr> <tr> <th colspan="2" style="text-align: center;">1～3 月期</th> <th colspan="2" style="text-align: center;">4～6 月期</th> <th colspan="2" style="text-align: center;">7～9 月期見通し</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1 位</td> <td>四 国</td> <td style="text-align: center;">→</td> <td>中 部</td> <td style="text-align: center;">→</td> <td>中 部</td> </tr> <tr> <td>2 位</td> <td>中 国</td> <td style="text-align: center;">→</td> <td>北 陸 信 越</td> <td style="text-align: center;">→</td> <td>北 陸 信 越</td> </tr> <tr> <td>3 位</td> <td>中 部</td> <td style="text-align: center;">→</td> <td>関 東 ・ 四 国</td> <td style="text-align: center;">→</td> <td>近 畿</td> </tr> <tr> <td>4 位</td> <td>北 陸 信 越</td> <td style="text-align: center;">→</td> <td>近 畿</td> <td style="text-align: center;">→</td> <td>北 海 道</td> </tr> <tr> <td>5 位</td> <td>近 畿</td> <td style="text-align: center;">→</td> <td>東 北</td> <td style="text-align: center;">→</td> <td>関 東</td> </tr> <tr> <td>6 位</td> <td>北 海 道</td> <td style="text-align: center;">→</td> <td>北 海 道</td> <td style="text-align: center;">→</td> <td>東 北</td> </tr> <tr> <td>7 位</td> <td>関 東</td> <td style="text-align: center;">→</td> <td>中 国</td> <td style="text-align: center;">→</td> <td>四 国</td> </tr> <tr> <td>8 位</td> <td>九 州</td> <td style="text-align: center;">→</td> <td>九 州</td> <td style="text-align: center;">→</td> <td>中 国</td> </tr> <tr> <td>9 位</td> <td>東 北</td> <td style="text-align: center;">→</td> <td>九 州</td> <td style="text-align: center;">→</td> <td>九 州</td> </tr> </tbody> </table> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>— 文字の凡例 —</p> <p>標準文字: やや悪化</p> <p>ゴシック: 悪化</p> <p>反転文字: 強い悪化</p> </div>	H 2 2 年		H 2 2 年		H 2 2 年		1～3 月期		4～6 月期		7～9 月期見通し		1 位	四 国	→	中 部	→	中 部	2 位	中 国	→	北 陸 信 越	→	北 陸 信 越	3 位	中 部	→	関 東 ・ 四 国	→	近 畿	4 位	北 陸 信 越	→	近 畿	→	北 海 道	5 位	近 畿	→	東 北	→	関 東	6 位	北 海 道	→	北 海 道	→	東 北	7 位	関 東	→	中 国	→	四 国	8 位	九 州	→	九 州	→	中 国	9 位	東 北	→	九 州	→	九 州
H 2 2 年		H 2 2 年		H 2 2 年																																																															
1～3 月期		4～6 月期		7～9 月期見通し																																																															
1 位	四 国	→	中 部	→	中 部																																																														
2 位	中 国	→	北 陸 信 越	→	北 陸 信 越																																																														
3 位	中 部	→	関 東 ・ 四 国	→	近 畿																																																														
4 位	北 陸 信 越	→	近 畿	→	北 海 道																																																														
5 位	近 畿	→	東 北	→	関 東																																																														
6 位	北 海 道	→	北 海 道	→	東 北																																																														
7 位	関 東	→	中 国	→	四 国																																																														
8 位	九 州	→	九 州	→	中 国																																																														
9 位	東 北	→	九 州	→	九 州																																																														
<p>② 規模（注5）</p>	<p>・業界の景況感は、小規模事業者は前回から水準を下げ悪化となっている。大規模事業者は前回の水準をほぼ維持しており、相対的に景況感は良い。</p>																																																																		
<p>③ 品目（注6）</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・消費関連貨物は、引き続きやや減少となっている。一般貨物の輸送数量では、農水産品、日用品の水準が相対的に低い。食料工業品は水準を上げた。今後も大きな変化はない見込み。 ・建設関連貨物は、前回からやや水準を下げ、品目別で最も悪い。一般貨物の輸送数量では、特に鉱産品の水準が低い。林産品、金属製品は水準を上げた。今後も大きな変化はない見込み。 ・機械関連貨物は、品目別では相対的に最も良い。一般貨物の輸送数量では、輸送機械が改善し、やや増加となっている。その他機械も改善した。今後は水準を下げる見込み。 ・その他貨物は前回から水準を下げた。しかし相対的には機械関連貨物の次に良い。一般貨物の輸送数量では、金属製品の水準が相対的に高い。今後は水準を下げる見込み。 																																																																		

(注4) 地域分類は地方運輸局管轄地域区分に基づく。

(注5) 規模別分類

大規模事業者：101両以上 中規模事業者：21両以上100両以下 小規模事業者：20両以下

(注6) 品目別分類

消費関連貨物：農水産品、食料工業品、日用品など

建設関連貨物：林産品、砂利、砂、石材、建設用資材、窯業品(セメント等)など

機械関連貨物：電気機械(家電含む)、輸送機械(自動車等)など

その他貨物：石炭、原油、金属、石油、化学、紙・パルプなど

7. 景況感一覽表







		特積貨物						一般貨物			雇用関連			総合計		
		宅配貨物			宅配以外の特積貨物											
全 体		↘	↘	↘	→	↘	↘	↘	↘	↘	→	→	→	↘	↘	↘
地 域	北海道	→	↘	→	→	→	↘	→	↘	↘	→	→	→	→	↘	→
	東北	↘	↓	↓	↓	↘	↘	↘	↘	↘	↘	↘	↘	↘	↘	↘
	北陸信越	→	→	→	↘	↘	↘	↘	↘	↘	→	→	→	→	↘	↘
	関東	↘	↘	↘	↘	→	→	↘	↘	↘	→	→	→	↘	↘	↘
	中部	↘	↘	↘	→	→	↘	↘	→	↘	↘	↘	↘	↘	↘	↘
	近畿	↘	↘	→	↘	↘	↓	↘	↘	↘	→	↘	↘	↘	↘	↘
	中国	→	↘	↓	↘	→	↘	→	↘	↘	→	→	↘	→	↘	↘
	四国	→	↘	↘	→	↘	↘	→	↘	↘	→	→	↘	→	↘	↘
	九州	↘	↓	↘	↘	↓	↓	↘	↘	↘	→	↘	↘	↘	↘	↘
事業者規模	小規模事業者	↘	↓	↘	↘	↘	↘	↘	↘	↘	→	↘	↘	↘	↘	↘
	中規模事業者	↘	↘	↘	↘	↘	↘	↘	↘	↘	→	→	→	↘	↘	↘
	大規模事業者	↘	↘	↘	→	↘	↘	→	→	→	→	→	→	→	→	↘
取り扱い品目	消費関連貨物	↘	↘	↘	→	↘	↘	↘	↘	↘	→	→	→	↘	↘	↘
	建設関連貨物	↘	→	→	↘	↘	↘	↘	↘	↘	↘	↘	↘	↘	↘	↘
	機械関連貨物	↘	↘	↘	↓	↘	↘	→	→	↘	→	→	→	↘	↘	↘
	その他貨物	↘	↓	↘	→	→	→	→	↘	↘	→	→	→	→	↘	↘

(注7) 各項目は、関連する判断指標(前年同期に対する水準)から平均値を算出。

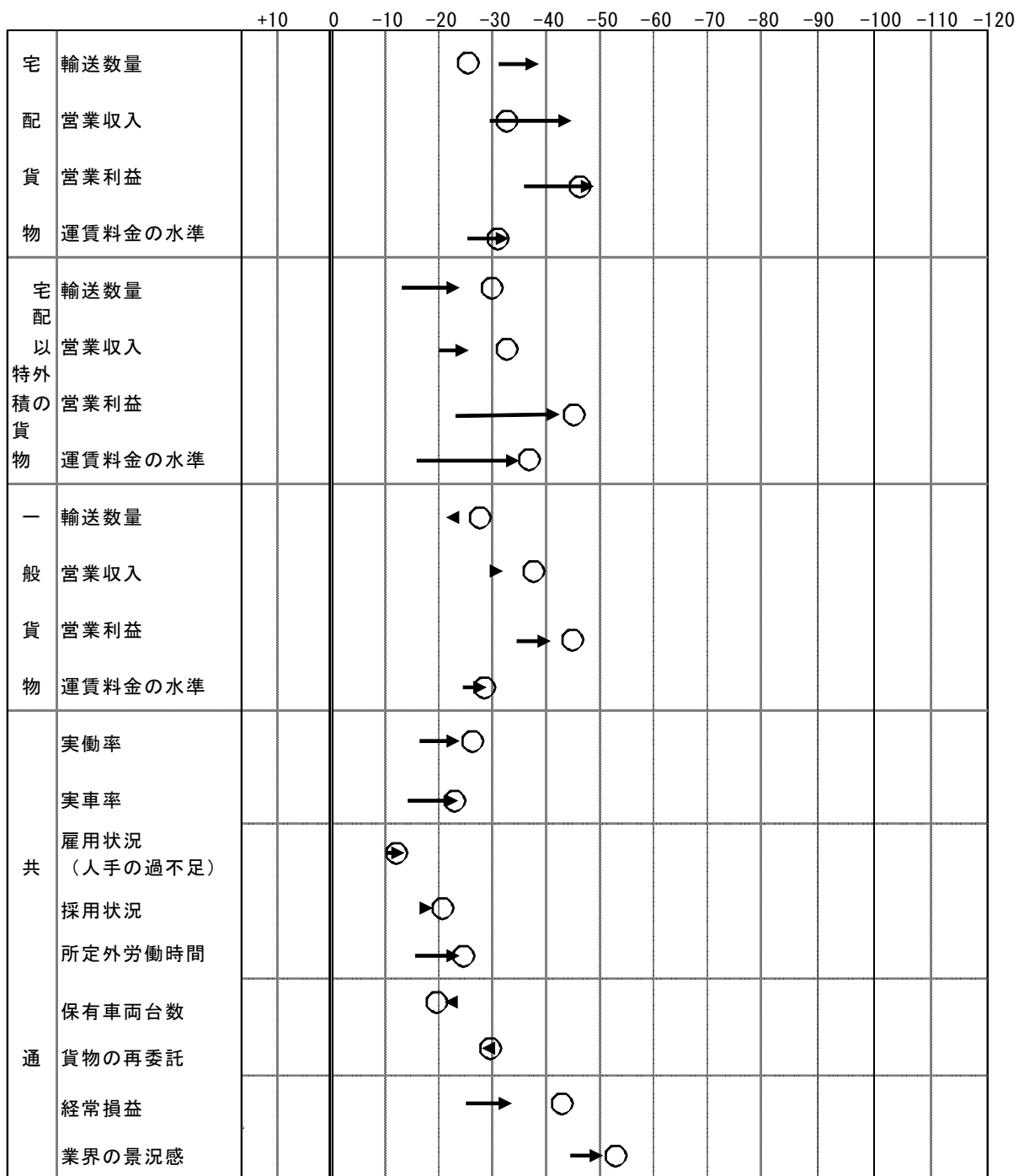
貨物別については、輸送数量、営業収入、営業利益、運賃水準の平均値で判断。

凡例・各欄は、左:前回(1-3月) 中央:今回(4-6月) 右:見通し(7-9月)

・矢印と判断指標の対応

判断指標	… -100 … -60 … -20 … +20 … +60 … +100 …
矢 印	     

8. 業況判断指標の前回調査（平成22年1月～3月期）からの変化



凡 例

